

令和 8 年度 第 2 回 静岡市上下水道事業経営協議会 会議録

1 日時 令和 8 年 7 月 31 日（金） 15：00～17：00

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7 階 71 会議室

3 出席者

（1）委員（敬称略） 8 人出席／11 人全体

鈴木会長、小泉副会長、狩野委員、竹内委員、橋本委員、原田委員、堀田委員、横山委員
（欠席）大石委員、中井委員、濱田委員

（2）上下水道局職員

石野上下水道局長、
石原水道部長、石上下水道部長、
川口参与兼上下水道総務課長、秋山参与兼上下水道経営企画課長、大竹上下水道経理課長、
水島お客様サービス課長、
瀧戸参与兼水道計画課長、山下水道建設・維持課長、角谷参与兼水道施設課長、
今泉中山間地水道課長、浅井参与兼水質管理課長、鎌田水道事務所長、本多水道維持担当課長、
新庄清水水道施設担当課長、
稲葉参与兼下水道計画課長、梅本下水道建設課長、山上下水道維持課長、山本下水道施設課長、
杉山下水道事務所長、河野葵・駿河浄化センター担当課長、風岡清水浄化センター担当課長
※代理出席の所属もあり

（3）協議会事務局職員

秋山参与兼上下水道経営企画課長 外 5 名

4 傍聴者 報道 2 社

5 内容

（1）開会

（2）議題

① 令和 7 年度事務事業の自己評価説明・意見聴取について

事務局・各所属長から説明

資料 1：事務事業評価一覧（令和 7 年度）

資料 2：第 5 次中期経営計画 事務事業評価シート（令和 7 年度）

【小泉副会長】

- ・資料2 P28の配水ブロックの再編とはどのような内容であり、何を目指しているのか。
- ・資料2 P12の雨水管・ポンプ場などの整備の事務事業において、三保地区は費用対効果が見込めないことで事業を一時休止したとあるが、このように計画策定後に各地区ごとに判断し、場合によって計画を見直すことは必要であり、良いことだと感じた。

→【水道・建設維持課】

- ・市内の管路網があるが、これを細かくブロック化することによって災害時に修繕する地区を限定することができ、被害を最小限にすることが可能となる。また、ブロック化することによって、不要と判断できる施設は将来的に廃止していくことが可能となる

【狩野委員】

- ・資料2 P38の下水道計画区域内の整備の事務事業において、自己評価がa未満となった理由の欄に「宮川・水上土地区画整理事業地内において、区画整理事業による造成等の進捗が遅れており、」とあるが、移転工事とか換地処分などの行程があるうち、どこまで完了しているのか。

→【下水道建設課】

- ・市長部局の担当部署より仮換地指定までは完了しているが、地権者との調整なども含め、設計の段階で時間を要していると報告を受けている。

【鈴木会長】

- ・全体に関する意見として、事務事業は、老朽化対策などいつまでも継続するものと、配水ブロックの再編などどこかで完了するものに大きく分かれるが、完了する事務事業において、4年間の取組内容に加えて、予定として最終的にいつ完了するのか、第5次中期経営計画においてc評価となった事業がいつまでに完了するのかの情報が次期計画に加わると更にわかりやすくなるため、今後に向けて検討してほしい。

② 施策（令和5～7年度）の自己評価説明・意見聴取について

事務局・各所属長から説明

資料3：令和7年度 施策評価一覧

資料4：施策評価記載例

資料5：第5次静岡市中期経営計画の施策及び事務事業評価（令和7年度）

【小泉副会長】

- ・資料5 P17 災害時などの対応や体制の確立の施策の実施した点の欄において、地域防災訓練の手法を見直し、改善を図られたのは良いことである。現在、参加人数となっている成果指標

は、次期計画において見直すことは考えているのか。

→【上下水道経営企画課】

- ・ご指摘のとおり、訓練に参加する人数を増やすことではなく、本来は訓練による職員自身の理解度を向上させることが目的であるため、次期計画においては、この指標を見直していく予定である。

【狩野委員】

- ・資料5P26の管・施設の効率化の課題点において、「水道管の漏水対策では、令和6年度に行った人工衛星データ等のAI解析による漏水リスク評価で、漏水リスクが低いと判定された地区においても、多くの漏水が確認された」とあるが、この技術は信憑性が低いと捉えていいのか。

→【水道計画課】

- ・ポリエチレン管という管種の中にも新旧の違いがあるが、今回のAI解析においては、その管種の違いをデータとして提供していなかった（全て新しい管種としてデータ登録していた）ため、古い管種の箇所においても、漏水リスクが低いと判定されたと考えられる。今後の解析ではこの部分も反映し、更なる精度向上を図っていきたい。

【狩野委員】

- ・ポリエチレン管の新旧による許容の範囲を変えていく必要があるということか。

→【石原水道部長】

- ・AI解析はデータを蓄積していくことで精度が向上していくため、今回の第1回の解析で判明したことを次回は反映させていく予定である。

【原田委員】

- ・資料5P15の給水拠点等の整備・充実で「田町配水場、与一取水場、八幡配水場、庵原北部配水場、茂野島中継ポンプ場」とあるが、全9拠点はどこか。

→【上下水道経営企画課】※調査後、協議会の終わりに回答

- ・南安倍配水場、鎌田配水場、草薙配水場、藁科第1配水場、田町配水場、与一取水場、八幡配水場、庵原北部配水場、茂野島中継ポンプ場の9か所である。

【鈴木会長】

- ・資料3で有収率が参考指標となっていて評価されていないが、この理由はなにか。静岡市の有収率は全国的にみても低く、有収率を向上させることが重要であると、上下水道局においても認識していると承知しているが、この有収率の目標は示したほうがいいのではないか。

→【水道計画課】

- ・経営戦略において令和16年度までに90%という目標は掲げているが、その過程の推移は現在示していない状況である。

【鈴木会長】

- ・令和4年から令和7年にかけて有収率は下がっている。これは大変なことではないか。

→【水道計画課】

- ・令和7年度から配水流量計を配水池の出入口に設置し、施設内の漏水を確認するなど、上流から調査を進めている。

【鈴木会長】

- ・漏水対策を進めているのであれば、有収率は向上していくはずである。令和16年度の目標達成が現実的なのか疑義が生じてしまう。有収率の目標設定が参考指標であるのは他と比べて違和感があるため、次期中期経営計画においては達成状況を示すことができるようにしてほしい。

③ 上下水道事業経営戦略改定及び第6次中期経営計画策定の概要

上下水道経営企画課から説明

資料6：経営戦略・中期経営計画の計画期間について

資料7：上下水道事業経営戦略の改定概要

資料8：第6次中期経営計画の概要

【小泉副会長】

- ・成果指標そのものが目標化しないようにしてほしい。その達成度ではなく、資料2・5などの自己評価欄に記載されているように結果を分析していること、PDCAのチェックの部分が重要であることを承知しておいてほしい。

【鈴木会長】

- ・大学の認証評価においても、ABCなどの定量評価に加えて、その評価の背景などを文章で提出することになっていて似ている部分がある。小泉委員の意見も参考にして次期計画の策定作業を進めてほしい。

④ 報告事項 水道料金の減額について

お客様サービス課から説明

資料9：水道料金の減額について

質問なし

⑤ 報告事項 熊本地震に対する静岡市の対応状況について

上下水道経営企画課から7/31時点の市報道資料・国土交通省からの情報などの内容を説明

資料なし

質問なし

〈連絡事項（事務局）〉

- ・資料 10-1、10-2、11 は、令和 8 年 8 月 31 日（月）までに事務局あて提出いただきたい。
（各項目への記入は任意、提出は必須）

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

（署名） 鈴木 学